

# Economic Indicators

発表日: 2020年10月19日(月)

## 貿易統計(2020年9月)

～世界経済の持ち直しから輸出の増加が続く、貿易収支は黒字幅拡大～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
		原数値		輸出金額		前年比				前年比			
				前年比	前年比	アメリカ	EU	アジア	アメリカ	EU	アジア		
19年	10月	112	▲1,097	▲9.2	▲14.7	▲4.4	▲6.7	▲8.4	▲7.1	▲6.1	▲7.6	▲10.3	▲7.0
	11月	▲884	▲1,729	▲7.9	▲15.6	▲5.0	▲9.7	▲10.3	▲2.7	▲8.1	▲1.4	▲10.6	▲8.5
	12月	▲1,591	▲1,307	▲6.3	▲4.8	▲1.9	▲11.4	▲7.4	0.5	1.2	▲5.0	2.5	0.5
20年	1月	▲13,151	▲2,268	▲2.6	▲3.6	▲1.6	▲8.9	▲9.1	▲1.5	▲1.7	▲19.9	1.2	0.3
	2月	11,066	4,236	▲1.0	▲13.9	▲2.4	▲4.5	▲9.7	▲0.9	▲17.3	▲11.1	▲8.5	▲25.0
	3月	72	▲2,269	▲11.7	▲5.0	▲11.2	▲15.9	▲9.1	▲10.5	▲2.5	▲1.8	▲2.6	▲2.6
	4月	▲9,312	▲9,522	▲21.9	▲7.1	▲21.3	▲36.9	▲27.7	▲11.8	1.5	4.2	▲0.2	5.6
	5月	▲8,413	▲5,524	▲28.3	▲26.1	▲27.3	▲49.4	▲34.8	▲11.4	▲14.6	▲22.8	▲26.3	▲8.7
	6月	▲2,729	▲3,733	▲26.2	▲14.4	▲26.9	▲47.0	▲33.0	▲17.7	▲0.8	▲12.7	▲6.2	0.0
	7月	71	1,104	▲19.2	▲22.3	▲21.9	▲21.5	▲36.7	▲11.3	▲14.0	▲28.0	▲12.6	▲10.8
	8月	2,486	3,572	▲14.8	▲20.8	▲14.9	▲20.1	▲27.5	▲7.3	▲11.6	▲22.4	▲15.1	▲7.5
	9月	6,750	4,758	▲4.9	▲17.2	▲7.7	▲6.1	▲23.3	▲3.7	▲8.4	▲16.4	▲3.9	▲7.7

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

### ○乗用車を中心に輸出の持ち直しが続く、貿易収支は8月からさらに黒字を拡大

財務省より発表された9月の貿易統計によると、貿易収支は+6,750億円の黒字（コンセンサス：+9,807億円の黒字、レンジ：+7,200億円の黒字～+13,724億円の黒字）となり、コンセンサスを下回る結果となった。輸出金額は前年比▲4.9%（コンセンサス：同▲2.4%、レンジ：同▲8.0%～同▲0.1%）、輸入金額は同▲17.2%（コンセンサス：同▲21.4%、レンジ：同▲24.4%～同▲15.5%）と、輸出は前年比での減少幅を大きく縮小させた。

品目別にみると、輸出については、鉄鋼（前年比▲29.1%）、鉱物性燃料（同▲60.6%）などが減少に寄与している。一方、持ち直しが続いている自動車については、米国向けが同+19.1%と前年を上回ったことなどから、前年比で同▲0.5%と8月から減少幅を大きく縮小している。また、中国向けを中心に非鉄金属（同+41.2%）、半導体製造装置（同+16.3%）が前年比で大幅な伸びとなった。輸入については、原粗油（同▲43.4%）や液化天然ガス（同▲42.2%）、石炭（同：▲39.2%）などの大幅な減少が続いていることが前年比での減少に寄与した。

季節調整値でみると輸出金額は前月比+4.5%、輸入金額が同+2.6%となった。8月から輸出入ともに増加、貿易収支は4,758億円の黒字と8月（3,572億円の黒字）から黒字幅がさらに拡大した。

9月は各国での経済活動正常化の動きが続いたことから、輸出入ともに8月から増加した。輸出については中国向け（前年比+14.0%）が前年を上回る水準で推移していることに加え、米国向けも（同+0.7%）と前年を上回った。一方、輸入については、原油価格など燃料価格の低迷などが影響し、持ち直しは鈍いものとなっている。

### ○実質輸出は前月比+6.3%、輸送用機器を中心に4か月連続で増加

為替などの価格変動の影響を除いた9月の実質輸出（実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算）は、前月比+6.3%（8月：同+5.9%）と4か月連続で増加、高い伸びを維持した。自動車等の輸送用機器（同+15.4%）や半導体製造装置等の一般機械（同+3.1%）が実質輸出の増加に寄与した。

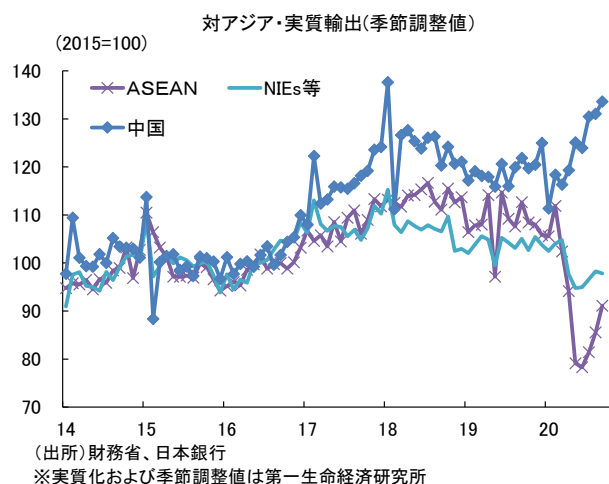
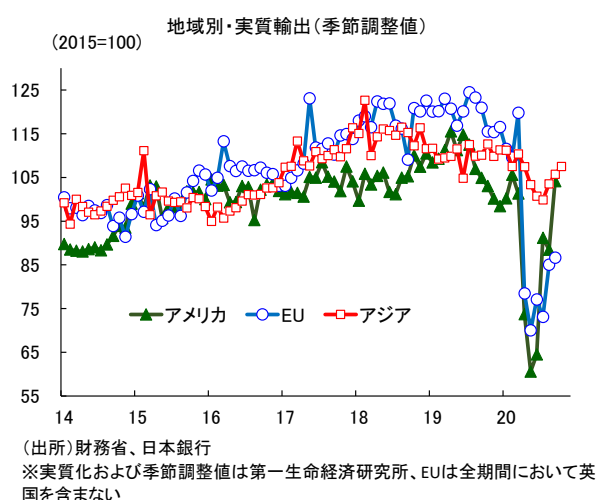
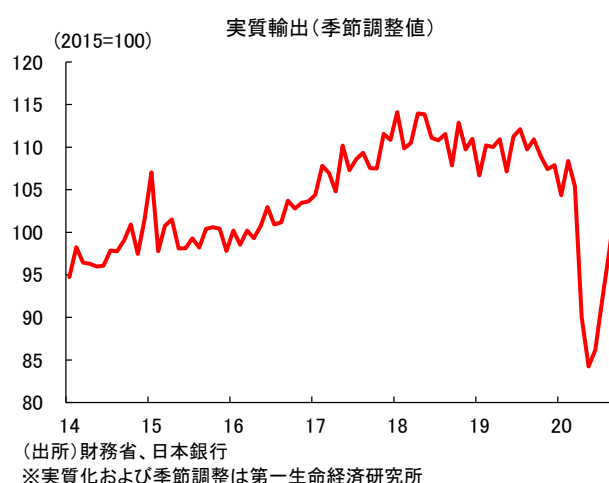
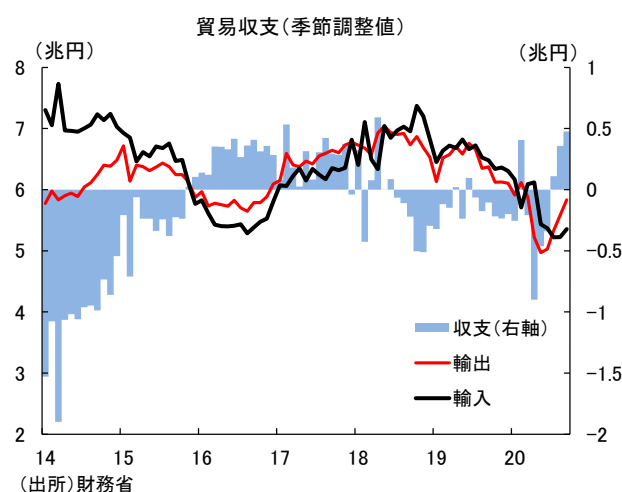
国、地域別にみると、米国向けは前月比+17.7%と、自動車等の輸送用機器や医薬品等の化学製品などが増加したことにより8月から大幅に増加した。また、経済活動正常化の動きが進んだことから、EU向け（同+1.9%）、アジア向け（同+1.7%）、中国向け（同+1.9%）も増加が続いている。

### ○経済活動再開が進んだことから7－9月期の輸出は大きく持ち直す、先行きは緩やかな持ち直しに

9月の貿易統計は、各国での経済活動再開が進んだことを受け、自動車など輸送用機器を中心に輸出の持ち直しが続いた。一方、輸入については、原油価格の低迷から持ち直しは鈍いものとなっている。

世界各国で経済活動再開が進んだことから、7－9月期の輸出は前期比+10.0%と大幅に増加、10月以降も輸出の持ち直しは続くと思われる。もっとも、今後も経済活動への制限は続き、世界経済の回復は緩やかなものにとどまる見通しであることから、輸出の持ち直しのペースは徐々に鈍化していくと思われる。輸入については、原油価格の低迷が続いていることなどが下押し圧力となり、7－9月期は前期比▲6.6%と減少した。先行きについては日本での経済活動正常化の動きから持ち直しが見込まれるも、原油価格の低迷が輸入の頭を押さえるだろう。

7－9月期は世界経済の持ち直しから、輸出が大きく持ち直した。もっとも、前年を下回る水準であり、先行きの持ち直しは緩やかなものにとどまるとみられる。欧米を中心に新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しており、先行き不透明感は依然として強い。また、米中対立による貿易への影響にも注意が必要だ。輸出入が感染拡大前の水準に戻すには時間を要するとみられる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。